
「小型脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血症例の臨床的特徴：後方視的観察研究」

に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの情報を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2019年12月1日から2024年11月30日までの間に、埼玉医科大学総合医療センターで「くも膜下出血（脳動脈瘤の破裂）」の診療を受けた患者さんが対象です。

2. 研究の目的

脳の血管にできたこぶ（脳動脈瘤）が破裂してくも膜下出血をおこした患者さんについて、どのくらいの大きさ・どの部位の動脈瘤が破裂したのか、また治療の内容や治療後の経過について調べるのが目的です。

特に、これまで「破裂しにくい」とされてきた5mm以下の小さな動脈瘤であっても実際には多くの破裂が起きていることが明らかになってきており、その実態を明らかにすることで、今後の脳動脈瘤の治療方針の改善に役立てることが期待されます

3. 研究期間

病院長の許可日 ～ 2028年12月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2026年8月6日

※この日以降も、ご希望があればいつでも研究への利用を停止することが可能です。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

この研究では、以下のような情報を利用します。

- ・診療記録（カルテ）に記載された年齢、性別、既往歴（高血圧・糖尿病・喫煙等）
- ・脳動脈瘤の大きさ・部位・形態に関する情報（CTや脳血管造影などの画像検査の情報）
- ・入院時の意識状態・重症度の評価

- ・治療の内容（手術または血管内治療）および治療中の合併症の有無
- ・発症から 30 日後および 90 日後の神経学的機能状態（mRS）

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターにおいて、研究責任者である飯星智史が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

すでに行われた診療の中で記録された情報を使用します。あらたに検査や処置をすることは一切ありません。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

- ・埼玉医科大学総合医療センター 脳神経外科 飯星智史（研究責任者）

※本研究は当院単独で行います。

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮 好文

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報などをこの研究に使われたくない場合や、ご質問・ご相談がある場合には、下記の連絡先までご連絡ください。

ご連絡をいただいた場合、その後は研究に使用いたしません。

ただし、すでに結果が論文などで発表されていた場合には、削除や破棄ができないことがありますので、ご了承ください。

【連絡先】

埼玉医科大学総合医療センター 脳神経外科

担当者：中村 翔

住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981 番地

電話：049-228-3655（平日 9:00～17:00）

メール：nakamura.sho.231@1985.saitama-med.ac.jp

【研究課題名】

小型脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血症例の臨床的特徴：後方視的観察研究

【研究責任者】

埼玉医科大学総合医療センター 脳神経外科 飯星智史